近年、日本人男性の **62.1%** 日本人女性の **48.9%** が、がんになると言われています※1。

■ 累積がん罹患リスク　男性　女性

男性では、2人に1人から、3人に2人に近づいています。

男性の方へ

40代

がんは近年、**40代男性の死亡原因の1位または2位**となっています。

がんは高齢者だけの病気ではありません。
40代はがんが増え始めるため、
検診によって早期発見することが大切です。

40代男性の死亡者数 ワースト5（2023年）※2

1位	自殺	2,594人
2位	**がん**	**2,397人**
3位	心疾患	1,814人
4位	脳血管疾患	1,131人
5位	肝疾患	870人

あなたに必ず受診して欲しい、3つのがん検診（なりやすいがん順）※1

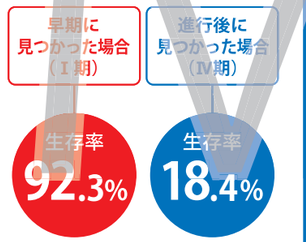
1. 大腸がん
2. 胃がん
3. 肺がん

50代

50代はそろそろ“がん年齢”。
でも、定期的な検診受診で、**自覚症状**が出る前に
がんは**早期に発見**できます。

大腸がん・胃がん・肺がんは、早期発見によって80%以上が治ります。※3

発見時期による5年生存率
〈大腸がん（男女）の場合〉※3



あなたに必ず受診して欲しい、3つのがん検診（なりやすいがん順）※1

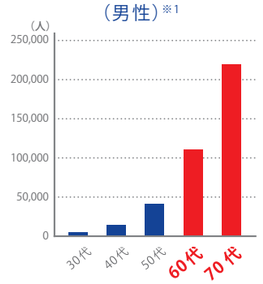
1. 大腸がん
2. 肺がん
3. 胃がん

60歳以上

60歳を過ぎると、がんになる人は**激増**。
毎年、**約11万人の60代男性が**、がんに
なっています※1。

早期のうちは自覚症状がないため、検診を受けないと
見つけられません。だからこそ、検診による早期発見が大切。

年代別がんになる人の数
（男性）※1



あなたに必ず受診して欲しい、3つのがん検診（なりやすいがん順）※1

1. 肺がん
2. 大腸がん
3. 胃がん

※1　国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」全国がん登録（2021年診断例）
※2　人口動態統計（2023年）
※3　ここでいう「生存率」「治ります」とは、診断時からの5年純生存率（ネット・サバイバル）です。純生存率は、「対象となるがんのみが死因となる場合」を推計した生存率です。
院内がん登録生存率集計報告書においても2014-2015年5年生存率から、相対生存率に代わりこの方法による純生存率が採用されています。
出典：国立がん研究センターがん情報サービス「院内がん登録生存率集計」（2015年診断例）5年ネット・サバイバル
※4　がん検診受診率向上＜希望の虹プロジェクト＞による推計値

女性の方へ

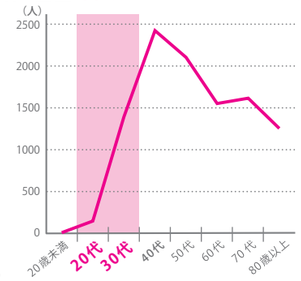
20代～30代

20歳を過ぎたら2年に一度、
必ず**子宮頸がん検診**を受診して下さい。

「まだがん検診は関係ない」そう思っていませんか？
子宮頸がんは、20代後半以降から増えるがんです。ただ、早期のうちに治療すれば、90%以上が治ります※3。
でも、早期の段階では自覚症状がないため、検診を受けないと見つけられません。

子宮頸がん検診は、あなたの**命**と**子宮**を守るための検診です。

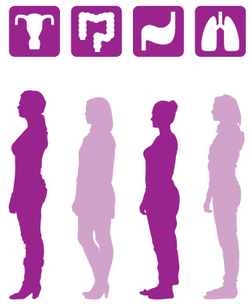
年代別子宮頸がんになる人の数※1



40代

40代女性の約**2人に1人**が、**乳がん検診**を受診しています。でも、乳がんの他にも気をつけなければいけない**がん**があるのをご存じですか？

子宮頸がん・大腸がん・胃がん・肺がんといった、乳がん以外のがんにも、毎年約7千人の40代の女性がなっています※1。



あなたに必ず受診して欲しい、5つのがん検診（なりやすいがん順）※1

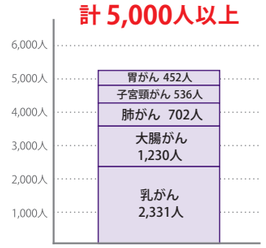
1. 乳がん
2. 大腸がん
3. 子宮頸がん
4. 胃がん
5. 肺がん

50代

50代は、女性の身体が大きく変わる年代。
がんで死亡する人の数も大きく**増加**します。

乳がん・大腸がん・胃がん・肺がん・子宮頸がんといったがんは、早期発見で80%以上が治ります※3。しかし、早期のうちは自覚症状がないため、検診を受けないと見つけられません。

左記の5つのがんによる 50代女性の死亡者数※2
計5,000人以上



あなたに必ず受診して欲しい、5つのがん検診（なりやすいがん順）※1

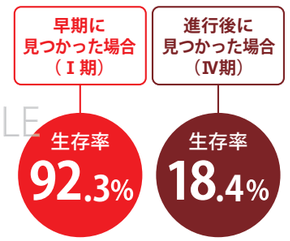
1. 乳がん
2. 大腸がん
3. 肺がん
4. 子宮頸がん
5. 胃がん

60歳以上

がんになったら治らない、そう思っていませんか？
がん検診をすべての対象者が正しく受けると、
毎年日本全国で約**6万7千人**の**命**が救われます※4。
（ここでいうがん検診とは、推奨されている以下の5つの検診を指します）

女性がなりやすい5つのがんは、検診による早期発見で
80%以上が治ります※3。

発見時期による5年生存率
〈大腸がん（男女）の場合〉※3



あなたに必ず受診して欲しい、5つのがん検診（なりやすいがん順）※1

1. 大腸がん
2. 乳がん
3. 肺がん
4. 胃がん
5. 子宮頸がん

SAMPLE

がん検診の受け方

SAMPLE

各自治体でご自由に
ご作成ください

SAMPLE

お問い合わせ先

SAMPLE 各自治体でご自由に
ご作成ください

がんは、早期発見すれば 80～90%※1 が治ります。※2

※1　肺がんは80%以上、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんは90%以上。
※2　ここでいう「治ります」とは、診断時からの5 年純生存率（ネット・サバイバル）です。純生存率は、「対象となるがんのみが死因となる場合」を推計した生存率です。
院内がん登録生存率集計報告書においても2014-2015年5年生存率から、相対生存率に代わりこの方法による純生存率が採用されています。
出典：国立がん研究センターがん情報サービス「院内がん登録生存率集計」（2015年診断例）5年ネット・サバイバル

ぜひ、この機会にがん検診を受けてください。

国が推奨するがん検診の種類

種　類	検査項目※1	対象年齢	受診間隔
胃がん検診※2	胃エックス線検査※3 または胃内視鏡検査	50歳以上	2年に1回
大腸がん検診	便潜血検査（検便）	40歳以上	1年に1回
肺がん検診	胸部エックス線検査および喀痰細胞診※4	40歳以上	1年に1回
乳がん検診	マンモグラフィ	40歳以上	2年に1回
子宮頸がん検診※5	視診、子宮頸部の細胞診および内診	20歳以上	2年に1回

※1　検診項目は問診を含みます。肺・乳がん検診の問診では必ずしも医師が対面で聴取する必要はなく、自記式の質問用紙に記入することで問診の代わりとしてよいことになっています。
※2　検査項目については、受診者がいずれか一方を選択します。
※3　当分の間、胃エックス線検査については、40歳以上、1年に1回の実施も可とされています。
※4　喀痰細胞診の対象は、50歳以上で、喫煙指数（1日本数×年数）が600以上の方です。
※5　HPV検査単独法については、実施自治体が少ないため、記載を省略しています。
出典：厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」、 厚生労働省「職域におけるがん検診に関するマニュアル」

市章　○○○市

このリーフレットは、がん検診受診率向上＜希望の虹プロジェクト＞が作成しました。

SAMPLE